

39. 頻脈性心房細動へのランジオロール投与に対してのクリティカルパス作成の意義と有用性の検討

研究の概要

術後患者の頻脈性不整脈時のみならず、多くの診療科の一般病床でも頻脈性心房粗細動合併時にランジオロールを使用する機会が増えてきたが、本来の適応からはずれた使用や心拍数安定後も長期間に渡り継続使用するなどの問題点も出てきています。ランジオロールの長期間の使用のため、診断群分類による包括支払い制度上も出来高算定よりかなりマイナスとなる例が散見されました。そのためランジオロールの投与方法と観察項目、内服への適切なタイミングでの切り替えを示すパスを作成し、院内で投与方法の標準化をはかることは意義のあることと考えます。

研究の目的と方法

ランジオロールの投与方法と観察項目、内服への適切なタイミングでの切り替えを示すパスを作成し、院内で投与方法の標準化をはかることが、入院期間や医療費などに与える影響があるかを検討することを目的とします。

頻脈性心房粗細動に対してランジオロールの投与をおこなった患者の診療記録より登録患者の臨床背景因子の調査をおこない、包括支払いと出来高算定での医療費や入院期間、ランジオロールの使用期間、本数などを診療科やパス作成前後などで分け、比較検討していきます。

本研究の参加について

頻脈性心房粗細動に対してランジオロールの投与が確認できた入院患者で本登録観察研究に不同意の意思を表明された患者を除く症例を登録します。本事業への参加は、患者さまの自由な意思に基づくものであり、参加されたくない場合は、データ登録を拒否していただくことができます。その場合は、病院の担当医または下記問合せ先にご連絡ください。なお、登録を拒否されたことで、日常の診療などにおいて患者さまが不利益を被ることは一切ございません。

調査する内容

臨床背景因子（性別、年齢、合併症、身体所見、血液検査データ、投薬内容等）の調査をおこない、包括支払いと出来高算定での医療費や入院期間、ランジオロールの使用期間、本数などを診療記録より調べます。患者さまの氏名・住所・生年月日など個人を特定する情報は解析用データファイルには記載せず、連結可能匿名化し管理します。データは過去のカルテから調べるだけですので、新たな情報の聴取や採取はありません。

調査期間

研究期間：2016年11月1日～2017年10月31日（調査対象期間：左記と同様）

研究成果の発表

調査した患者さまのデータは、集団として分析し、学会や論文では発表します。個人情報には調査しないので、個人が特定されることはありません。

当院における研究責任者

循環器内科 宮尾 雄治

問い合わせ先

循環器内科 宮尾 雄治

TEL: 096-353-6501